妙音

11月号

妙音新聞社
1部50円

〒567-0073
茨木市西穂積町7-41
電話(072)622-6861(代)
FAX(072)622-2787

智辯学園生が手術見学

医学部進学支援プロジェクト始動

智辯学園高等学校（手塚彰校長）で今年四月、大学医学部受験の生徒を後押しする「医学部進学支援プロジェクト」がスタートした。学園内で医師と定期交流会を開いたり、病院で実際に手術を見学したりなど第一線の医療現場を見聞きする。今回、和歌山県橋本市岸上の紀和病院（佐藤雅司理事長）を生徒らが訪れ乳がん手術を見学する体験現場をレポートしてみた。

医学部進学支援プロジェクトは、同病院紀和ブレストセンター長の梅村定司医師の肝いりで実現。智辯学園卒業生の梅村医師は「本気で医師になりたいと思っている生徒を一流の医者にしたい」との熱意でプロジェクトに取り組む。今回の手術体験も七十一歳の女性患者が梅村医師の思いに共感し、快く見学を受け入れて実現した。

十一月五日に行われた手術見学は、高校三年の男子生徒一人と女子二人の計三人に引率として手塚校長らが同行。医師を志願した理由について男子生徒は「人の役に立つ仕事がしたいと、小学生の時から医者を志望していた」と語る。女子生徒の一人は「看護師として働いている母を見て、自分も人の生命を助ける現場で働きたいと思った」。もう一人の女子は「目の前にいる人の生命を助けることで人の役に立ちたいと思った」と述べた。

見学に先立ち梅村医師は生徒らに患者の症状や手術の内容について、マンモグラフィー（乳房エックス線撮影装置）やMRI（磁気共鳴画像装置）といった医療機器とともに説明。三人は緊張した面持ちで真剣に聞き入り、最後に梅村医師が「質問ない」「怖くない」と声をかけると、ようやく気持ちがほぐれたのか柔らかな表情を見せた。

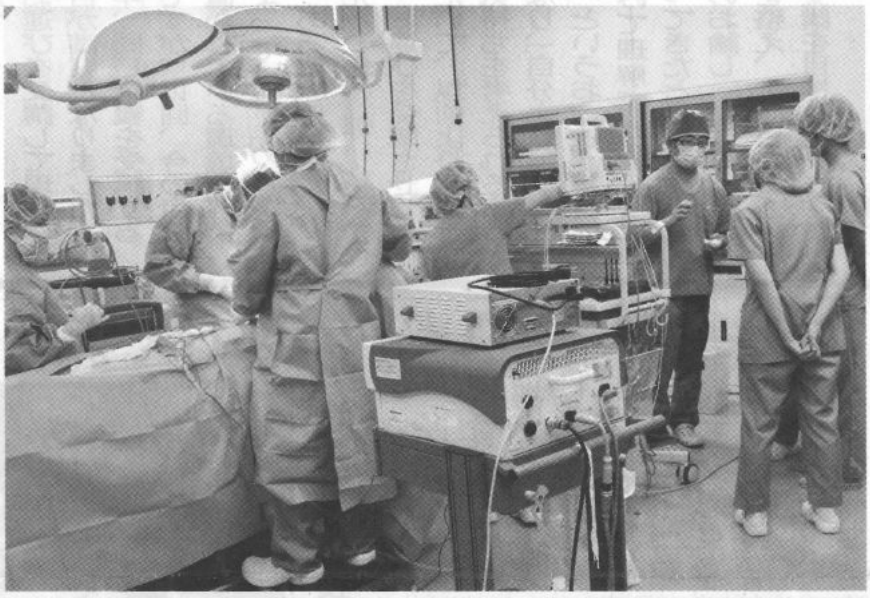
梅村医師の説明後、青色上下の手術着に着替え、白のマスクとヘアキャップを着用した生徒らは手術室に入室。ここでは全身麻酔や局部麻酔などの役割について麻酔医が解説し、生徒が実際に手術ベッドに横たわり、麻酔をかけられる状態を疑似体験する光景も見られた。

いよいよ七人の医師・看護師の立ち会いで手術がスタート。生徒らは患者に全身麻酔をかける現場から目の当たりにする。

麻酔機を装着して人工呼吸器がセットされ、三人は体内に空気が入っていく音を聴診器で確認したり、がん患部をメスで切り取ってがん組織を摘出・縫合する作業を間近で見学したり。手術中、「血が出ていたらこのように止める」「患部はきれいに洗浄しなくてはいけない」などと説明する梅村医師の言葉にも、じっと耳を傾けていた。

約二時間におよぶ手術見学を終え、男子生徒は「今まで手術に対して持っていたイメージより、思った以上に複雑で緊迫した雰囲気だった」。女子生徒の一人は「手術中、ずっとチーム全員が一丸となって協力し、手際良く取り組んでいたのに感動した」とコメント。もう一人の女子は「リーダーの医師が中心になって（手術を）行うイメージを持っていたが、全員のチームプレーで行われていることが理解できた」と、それぞれの感想を述べた。

最後に手塚校長は「あなたがたは高校生では通常できない貴重な体験をした。手術見学で得られた感想や思いなどを家に持って帰り、自分の心の中でじっくりと受け止めてほしい」と語りかけた。



紀和病院で乳がん手術を見学する智辯学園生徒